

(3) 学生版あるもの探し「島原半島“お宝掘り起し” 保全・活用コンテスト」

1) コンテスト募集要項

<求む若者のアイデア！島原半島の“お宝掘り起し” 保全・活用コンテストについて>

中学生や高校生、専門学校生、大学生の皆さんから、島原半島の資源や魅力を活用するアイデアを募集します。皆さんの新鮮な視点で、島原半島や雲仙天草国立公園雲仙地域の資源や魅力を見つけてください。そして、それをもとに、皆さんの柔軟な発想で、もっと島原半島や国立公園を美しく環境に優しく豊かに元気にするアイデアを、ご応募ください。島原半島や国立公園の資源や魅力を磨いて、更なる皆の“お宝”にする提案をお待ちしています！

※当コンテストは、環境省事業「平成 22 年度雲仙天草国立公園雲仙地域再整備計画等策定業務」の一環として実施するものです。

<雲仙プラン100プロジェクトについて>

25 年後、国立公園指定 100 周年を迎えるとき、島原半島や雲仙が、世界中から人が訪れ、訪れた人も、住む人も、働く人も、関わる人もみんな笑顔で元気になる場所にしていきたい。このような思いから、現在、島原半島が一体となった取り組みを目指して、半島の有志が集まり、まずは、お互いの顔や地域が見えるよう、交流や魅力探しからはじめ、その上で、今後の半島のために、それぞれの地域が持ち味を活かしながら、半島全体が一体となって、みんなが夢を持って共有・共感し、取り組める将来ビジョンをつくり、それを実現するための方法を考えているところです。

○募集内容・テーマ

- ・島原半島や雲仙天草国立公園雲仙地域ならではの、地域らしさや、面白さなどを感じる資源や魅力を掘り起こし、各部門の募集テーマに沿ってアイデアを、文章、写真、マップ、イラストなどに自由に表現してご応募下さい。
- ・以下の 2 部門を募集。

部門	募集内容
①「島原半島の魅力体感コースマップ」部門	<ul style="list-style-type: none">・島原半島や雲仙、島原半島ジオパークの人、物、自然、歴史、文化などの資源を活かした体験コースマップを募集します。・島原半島に訪れた人たちに、知ってもらいたい、体験・体感してもらいたい島原半島の魅力を伝えられるコース内容をご提案ください。「島原半島に行きたくなる」コースマップをお待ちしています。 <p>【地域資源の例】</p> <p>物知り古老の話や民話、農業や漁業などを通じた暮らしの魅力、地元だけで知られる絶景、昔からの人の営みを感じられる場所、普賢岳をはじめとした自然の恵みやそれを感じる場所など。これらをつなぎあわせて、コースを作成ください。</p> <p>※提案コースの名称、コースの図、コースの見どころや立ち寄り先の紹介などを、地図やイラストマップ、写真などを用いて、用紙 (A2 サイズ～ A1 サイズ) 1 枚に、わかりやすくまとめてください。</p>
②「元気なふるさと保全・活用」部門	<ul style="list-style-type: none">・島原半島の重要な特徴である「自然と人の共生」の象徴である里地・里山・里海を“保全(持続可能に)する”アイデアや、里地・里山・里海を活かした“元気な地域づくり”のアイデアを募集します。・島原半島の里地・里山・里海の魅力やすばらしさを見つけていただき、

部門	募集内容
	<p>また一方で、耕作放棄地や間伐の行き届かない林、漁場環境の悪化など、島原半島内の里山・里地・里海の抱える問題を調べ、「具体的にどんな場所に、どんな魅力と、どんな問題があるか、そして、その問題を解決し、地域の魅力を保全し、元気にするためにどうすればいいのか」をご提案ください。</p> <p>※すでにある取り組みに磨きをかけてより良いものにするアイデアや、別々に活動している人達やグループが協力することで、新しい動きが生まれるようなアイデアなどでも構いません。</p> <p>【提案してほしい取組みの例】 間伐イベントの実施、耕作放棄地での農業体験（景観・文化・誇りが守られ、体験料として収入が得られる）、間伐材による魚礁造成など</p> <p>【島原半島ですで行われている取組の例】 植樹活動（100年の森など）、ミヤマキリシマの保全活動、スクイの復元、こぶ高菜など半島固有の品種の栽培、棚田米の活用、耕作放棄地へのオリーブの植栽、ジオパークに関する取り組みなど</p> <p>※提案内容を簡潔に表すタイトル、解説文、図・イラスト・写真などを用い、用紙（A2サイズ～A1サイズ）1枚にわかりやすくまとめてください。</p>

○成果の活用方法

- ・学生の新鮮な視点からの半島の魅力、すばらしさをはじめ、学生の柔軟な発想からの半島や国立公園を美しく環境に優しく豊かに元気にするアイデアを、半島みんなで見つめ直し、共有します。
- ・半島内で行うイベントや、地域を元気にする素材として活用します。
- ・島原半島の魅力を伝えるための素材としてHPや広報誌などに掲載して活用します。
- ・「雲仙プラン100」の将来ビジョン・アクションプランに活用します。

○応募方法

郵送で応募してください。

- ・必要事項を達成していれば、一つの作品で両部門への応募も可とします。
- ・また、応募作品にはA4程度の紙に下記の項目を記入し、同封してください。
 - ①応募部門 ②作品タイトル ③応募者名：氏名または団体・グループ名
 - ④応募者が所属する学校・学科名、学年 ⑤連絡先：住所、電話番号、E-mail
 - ⑥情報入手元（参考文献やホームページの名称、インタビュー相手の名前など）
- ・あて先 住所：〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙 320 雲仙お山の情報館別館事務所内 雲仙プラン100プロジェクト事務局

○応募資格

- ・長崎県内の大学・専門学校の学生、または、島原半島の中学・高校の生徒。
- ・個人でもグループでも応募できます。
- ・何作品でも、また何部門でも応募できます。

○応募作品の著作権について

1. 応募作品の返却はできませんのでご了承下さい。
2. 応募作品には、詳細データ（撮影場所、撮影日時、撮影データなど）を後日、照会する場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

3. 応募作品の著作権は、主催者に帰属し、入賞作品については無償で使用できるものとします。また著作権・応募作品に関する権利義務の処理は、すべて応募者が事前に処理することとなります。
4. 応募作品は、主催者が催す展覧会のほか、制作する作品集、パンフレットなどに使用することがあります。
5. 応募作品は本コンテストの広報活動として、新聞、雑誌、テレビ、ホームページなどで使用することがあります。
6. 応募作品の取り扱いについては十分注意しますが、不測の事態による事故や不利益が発生した場合主催者などによる補償などの措置はありませんのでご了解下さい。

○応募締切り日

平成 23 年 8 月 31 日（水） 当日消印有効

○選考

雲仙プラン100策定委員や島原半島ワーキングメンバーが選考委員となって各賞にあたる作品を選びます。

○結果発表

- ・2011 年 9 月中に実施 表彰式、巡回展での展示・発表も予定しています。
- ・全ての応募作品は雲仙プラン100 ホームページに掲載するとともに、巡回展やシンポジウムなどで展示・発表します。

○賞品 優秀賞×各部門1名 計2名…島原半島の特産品詰め合わせ(1万円相当)

○主催・問い合わせ先

主催：雲仙プラン100プロジェクト

協力：島原半島観光連盟、雲仙市観光協議会、雲仙観光協会、小浜温泉観光協会、島原温泉観光協会、南島原ひまわり観光協会

後援：島原半島ジオパーク推進連絡協議会、雲仙市、島原市、南島原市

住所：長崎県雲仙市小浜町雲仙320 雲仙お山の情報館別館（旧ビジターセンター）事務所内

TEL/FAX：0957-73-2224 Mail：project@unzen100.org

ホームページ：http://unzen100.org

○チラシの掲示・配布先

■島原半島の県立高校（計3,898名）

学校名	学科
小浜高等学校	普通科
	ビジネス観光科
国見高等学校	普通科
	理数科
島原農業高等学校	農業科学科
	園芸科学科
	食品科学科
	生活福祉科
島原工業高等学校	機械
	電気
	建築
	電子機器

学校名	学科
島原商業高等学校	商業科
	国際経済科
	情報処理科
口加高等学校	家政科
	普通科
島原翔南高等学校	総合学科

■その他の高校 (計 246 名)

学校名	学科
島原中央高等学校	普通科
	商業科

■長崎県内の専門学校 (クリエイティブ系、ビジネス系の専門学校を抽出)

名称	学科
学校法人 平成国際学園 長崎情報ビジネス専門学校	デザインマスター科
メトロコンピュータカレッジ	モバイルシステム科
	WEB システム科
	PC デザインクリエイター科

■長崎県内の大学 (計約 18,000 名)

名称	宛先
長崎大学	環境科学部
長崎県立大学	総務課
活水女子大学	デザイン学科 準備室
長崎ウエスレヤン大学	現代社会学部経済政策学科
長崎国際大学	人間社会学部国際観光学科観光ビジネスコース
	人間社会学部 国際観光学科地域デザインコース
長崎純心大学	学生支援課
長崎総合科学大学	学生課

■島原半島の中学校 合計 21 校 (約 4,000 人)

■雲仙市、島原市、南島原市の公的施設 各数か所

2) 「島原半島“お宝掘り起し” 保全・活用コンテスト」 募集結果と入賞作品

応募作品数：3校6作品

半島の魅力体感コースマップ部門：1校1作品

元気なふるさと保全・活用部門：2校5作品

<半島の魅力体感コースマップ部門>

優秀賞 「おらが町のジオパークマップ」

長崎県立島原高等学校理数科8期生 代表 永田英之様



<元気なふるさと保全・活用部門>

優秀賞 「TEEN PROJECT」

福島由夏 山脇一恵（慶応義塾大学3年）様

慶応義塾大学SFC島原市プロジェクト 担当者:福島由夏 山脇一恵

TEEN PROJECT

現状・問題点
行政、市民間の意思疎通、連携が不十分。
市民側に地域資源に誇りを持って外に発信しようという姿勢がなく、観光に活かしきれていない
→ジオパークにも関連
→行政、市民の中間の立場に立てる市民主体のコミュニティの構築が必要。

提案
Mission: 伝統行事や祭り(島原水祭り)の企画、実行、PRを島原市内5つのある高校の生徒主体で行う
→若手の力の重要性⇒TEEN PROJECT

Vision: 行政と市民双方のwin-win関係を築くことで相互に地域資源の重要性を理解し、地域力向上を図る

外部

新しい視点 (New perspective) → 市民

注目 (Attention) ↓ JCI 総合運営

発信 (Communication) ← 行政

市民

TEEN PJ 企画、実行、PR

JCI 総合運営

行政 予算策定

協働実現 (Collaborative realization)

Q、TEENPROJECTとは？
A.行政、市民の中間の立場に立てる市民主体のコミュニティ

TEENプロジェクトの可能性
島原市内の高校生による地域貢献活動

- 地域清掃ボランティア活動
- 地域イベントへの参加
- 地産地消を目指した取り組み
- 商品開発、地域ブランド開発
- 地域交流・支援
- 島原半島世界ジオパーク展示ブースでの展示・発表

TEEN PROJECT

行政 ↔ 市民

資源の共通認識
ジオパークの浸透

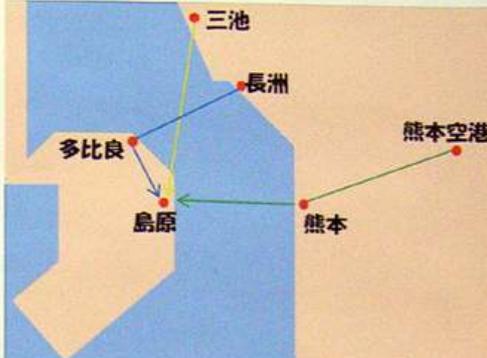
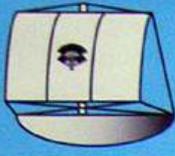
「うみのみち」

緒方伊久磨（慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科修士1年）

池田幸仁（慶應義塾大学4年） 久保慶一郎（慶應義塾大学3年）

慶應義塾大学SFC島原市プロジェクト

「うみのみち」づくり



島原半島は、海に囲まれた地域です。福岡・熊本と繋がる「うみのみち」は島原の特徴であり、かけがえのない資源であると思います。しかし現状では、

- ・うみのみちを使う人が少ない
- ・うみのみちの情報提供があまりなされていない

という問題点があり、上手く活かされていないように思います。そこで、この「うみのみち」の資源をもっと活かす2つの提案を考えました。



坂本竜馬が長崎を訪れた経路
(島原温泉観光協会HPより)

1. 「うみのみち」をもっと魅力的に！！

右の地図上の赤い線は、坂本竜馬が長崎を訪れた際に通った道です。島原への「うみのみち」は、このように沢山の歴史を持っています。そこで、「坂本竜馬の通った航路」のように「うみのみち」に名前をつけて航路自体のブランディングを図ります。

2. 「うみのみち」で島原をもっと魅力的に！！

島原には、フェリーで来る観光客の方も多し。しかし、フェリー利用者の多くは車に乗ったまま上陸するため、島原外港で観光案内を見る機会がない。設置しているパンフレットも多すぎて効果も薄い。そこで、パンフレットをHPなどにまとめ船内にデジタルサイネージやQRコードを設置することで、観光地の広報を行える。



パンフレットをHPにまとめ船内で広報！！

「SUM UP 島原」

柴田理紗 酒井麻里 (慶応義塾大学3年)

SUM UP!!

島原 雲仙 南島原
SUM UPとは・・・英語で「要約する」という意味。島原半島の「食」をグッと凝縮しよう!

慶応義塾大学SFC島原市プロジェクト 担当者：酒井麻里 柴田理紗

3市合同の食イベントで 島原半島アピールを!!

現在、島原半島3市(雲仙市、島原市、南島原市)の食を観光客が楽しむ機会が設けられていますか？観光客が島原半島全体を楽しみたい時、3市が協働してイベントを開催することによって、「島原半島を楽しむ」という感覚になるはずです。3市が協働することによってさらに「島原半島」の魅力を伝えることができるでしょう。

島原半島って、唐袋の形に似てる!?

ということで!! 島原半島の食を目一杯堪能してもらえるイベントの開催を提案いたします。場所は島原産の特産品も売られているみずなし本陣で♪

例：3市食べ比べコンテスト、3市ジオフード対決tc...

島原半島

伝える!集める! 3市の魅力。

どこの産品か分からない。ブランド力の発信不足。

3市それぞれのシールを1枚ずつ集めて台紙に貼付けて応募すると島原半島産品が景品としてもらえる!

お土産の表面に産品を書いたSUMシールを貼る。(→下の図を参考)

3市それぞれのシールがある。

南島原
SUM

島原
SUM

雲仙
SUM

例

【イメージカラー】GEOパークの4色と合わせる。一市一色。
【コンセプト】見やすく、シンプルに。かつ3種に統一感を。
【活用方法】それぞれの市にあるお土産やさんに、その市が産地になっている商品全てに貼る。
例：雲仙で売っている雲仙産のものにはシールを貼れるが、島原産のものには貼れない

